



## 近畿大学中央図書館 利用者サービス・利用者教育の取り組み

中尾 民子

2002年度から、近畿大学中央図書館の閲覧関係業務が業者委託になりました。

それに伴い、2003年度から利用者と館員が接する唯一の場として、新たにレファレンス課を設けて、利用者サービスの充実を計るよう努めてきました。しかし、館員の大多数が閲覧室や、カウンターで、利用者と接することがなくなった現在では、利用者の声、動きをどのように受け止めていけるのか不安です。

大学図書館として情報リテラシー教育を行うことは、資料・データベースなどの増加に伴う整備、施設の整備、改善などが不可欠になってきます。その改善によって向上した図書館サービスについて、図書館ではなにができるのかを利用者によりよく知ってもらうこと、そして実践してもらうこと、それが利用指導の第一歩であり、情報リテラシー教育の入口であると思います。

第一段階としての1回生の基礎ゼミでの利用指導、そして第二段階として2、3回生に対しての実習型のガイダンスへと展開させていきつつある現在、ようやく次の段階へ一歩踏みだしたところでしょうか。

なぜ情報リテラシー教育が必要なのか、なぜ

専門分野などにおける情報の評価が必要なのか、その方法をどういった形で身に付けていくのかを、利用者に問いかけていきたいと思えます。そのためには、指導する館員は、さらに勉強して柔軟な対応で答えていかねばなりません。

館員各人が利用者サービスを深く認識した上で、どのような利用指導が可能であり、実施できるのか、また、委託業務との関連を含めて、検討、改善を進めていきたいと思っています。

1. はじめに
2. 近畿大学中央図書館の概要
3. 学術情報の構築
4. 利用者サービスの充実
5. 各種の利用者ガイダンス 現状・問題点
6. 基礎ゼミ、2・3・4年授業での講習会 現状・問題点・文系・理工系・薬学・医学系
7. 講習会の改善に向けて
8. 講習会担当者の意識、アンケート調査、講習会担当者の育成・教育
9. まとめ